

春里地区 懇談会での主な意見と回答

日 時 平成26年6月21日(土曜日)午後5時から午後6時20分まで

場 所 東建塩河カントリー

出席者 46人

【質問】災害時における避難所機能の充実について

昨年度より、各連絡所に小型発電機を新たに設置し、太陽光発電装置を設置するよう設計を進める等、避難所の機能充実に取り組んでおられることは高く評価でき、また、大変感謝申し上げます。

大災害により、「停電」「断水」が起こると日常生活は大きく混乱し、特に水道の復旧には約30日かかると言われており、消火用水利、トイレや洗濯など生活水の確保が重要な課題となっています。井戸は耐震強度が強いため、地震による破損の可能性も低く、水源が尽きることもないため、名古屋市をはじめ井戸水を消火活動や災害時の生活水に利用している自治体も増えています。春里地区では、現在でも多くの皆さんが井戸を所有しておられ、昨年度、20件の井戸について水質検査を実施したところ、大腸菌などの一般的な検査項目においては、いずれも煮沸すれば飲むことが可能であるとの検査結果が出ました。

可児市には2台給水車がありますが、昨年視察した宮城県松島町では災害時には人工透析用に一病院で6トンの給水が必要と説明がありました。残り一台の給水車で全域をカバーすることは物理的に不可能であります。

市は他市町村からの応援で対処したいと言われていますが、大規模災害では可児市だけが被災地ではありません。自衛策として、各避難所に井戸を掘っておくことも避難所の機能強化において、非常に有効ではないかと考えます。

また、春里公民館が春里地区の避難所に指定されていますが、春里地区の西側にあり、若葉台(帷子)からも近いので、春里の市民が避難する場所としては相応しくありません。そこで春里地区の中央に位置する海洋センターの避難所を春里公民館と同レベルの第一次避難所に格上げされるよう要望します。(これまで海洋センターは春里公民館で収容できない場合や、地震災害時に開設すると言われてきましたが、可児市洪水ハザードマップ(避難地図)、可児市土砂災害ハザードマップでは第一次避難所として地区住民に周知されています。実態と違うのはなぜか。)

【回答】現在の地域防災計画は、7・15集中豪雨災害を決して忘れず、二度と災害による犠牲者を出さないとの思いを込めて、平成19年以降見直しが行われていなかった地域防災計画を平成24、25年度の2年をかけ、ゼロベースから見直しかけることとし、改訂作業を進め、平成25年8月30日に改訂したものです。

ご質問の避難所の指定について、風水害時における避難所の開設は、改訂以前から、最初に14箇所の連絡所を一次避難所として開設してきております。今回の改訂では、実態

に即し、連絡所を第一次避難所としたものです。

今回の見直し作業で、地域防災計画の全てが整ったわけではなく、国の基準や指針に対応するための改訂や、新規に策定するマニュアルもあることから、その都度、必要に応じた改訂を進めているところです。避難所の指定についても、見直しを進めていく中で検討していきたいと考えています。

ご意見のありました井戸の件については、避難所機能を検討する上で非常に重要な視点であると考えています。今後、避難所のエネルギー、水、食料の確保などを検討する中で井戸の位置づけについても、検討していきたいと考えています。

また、ハザードマップで海洋センターが第一次避難所になっていますのは、昨年8月30日に全面改訂する前の可見市地域防災計画によるものです。このハザードマップは、残数が約2,000冊あることから一部訂正し配布したいと考えています。(土木課対応)なお、今後、見直し作業を進め、早い段階で改訂版を作成していきたいと考えています。

可見市地域防災計画では、災害の種類を水害と地震とその他に分けて考えました。水害と地震では避難する対象者が異なり、水害の場合は天気予報などで事前にある程度予測できるため、14の連絡所を1次避難所として定めています。地震の場合も同じように1次、2次、3次と定めていますが、避難所の数はもっと多くないといけないと考えていますので、今その見直し作業をしているところです。

問題なのが、市の施設の中で、どの建物が壊れやすいか把握できていないこと、実際どれだけの人が避難してくるか把握できていないことです。そこを踏まえながら1から見直すよう取り組んでいます。また、1次、2次など分けするのではなく、震度 以上はどこへ避難するなどという区分で見直すことも考えています。

【質問】 可見市総合運動場について（周辺道路と駐車場対策について）

日本ランド、坂戸台は、総合運動場、B & G、可見高校の南向き道路に接しており、また工業団地への通勤道路として、以前より、自動車・自転車の交通量の多さが気になっていました。団地内には、幼児や小学生など小さい子ども達も多く、休日や朝夕の登下校には歩いている子どもがたくさんいます。

今年は、K Y B スタジアムが完成し、ますます施設利用者が増えています。大きなイベント時には、駐車場対策や交通整理に配慮されることと思いますが、野球、サッカー、テニス、空手などが同じ日に大会を開催した場合、台数調整を行わなければ施設内の駐車場では不足し、路上駐車が増加するのではないかと懸念しています。また、施設利用者の中には、市内はもとより市外や県外からの利用者もあると思われ、団地内の道路を通行する交通量も増大すると思われれます。団地内の道路には、歩道もなく、大変危険です。通行量増大に伴い周辺地区への影響や配慮、大規模イベント時の駐車場対策をどのようにご検討されているのでしょうか。日本ランド、坂戸台としては、歩道など歩行者空間の確保と、車の速度制御など、近隣住民へ安全策をご検討していただきたいと思っております。

【回答】 坂戸台の方面には車が回らないように、利用者に誘導し、坂戸方面から入っていただくよう考えており、今年度も案内看板を設置するよう進めています。また、この地域は

通学路でもあるので、みなさん心配されていると理解しているわけですが、市内でもこのような個所が多くあり、危険な個所を点検した中で、順次整備等進めているところです。特に懸案個所が地域から要望がいくつも出ている中で、危険個所優先順位を決めて整備しています。

運動公園内の各施設の大会が重なり、通常の駐車場（350台）で不足する場合は隣接する県のトラクター練習場部分を臨時駐車場（100台）としてお借りして対応をしています。併せて、主催者の方には、来場者に対して乗り合わせの指導をするようにもお願いをしています。

また、K Y B スタジアムで大規模なイベントを開催する際の対応としては、県のトラクター練習場部分に加えて、運動公園グラウンドも臨時駐車場とすることで、合計1,350台分を確保しています。この他、市の駐車場等を別途確保し、シャトルバスの運行も考えております。この際には、イベント開催のチラシやポスター等にも運動公園の案内図や臨時駐車場の案内と乗り合わせのお願いも掲載することを考えています。

周辺地域の安全対策として、イベントの主催者に対して、駐車場への誘導員、周辺道路の警備員等を配置させ、自動車の安全走行や路上駐車防止を徹底するよう指示をいたします。

【質問】可児市総合運動場について（K Y B スタジアムの開場時間について）

今年度、春里公民館が主催する行事でK Y B スタジアムを2回利用しましたが、開場時間が午前9時では遅いのではないかと感じました。

これまで午前中に終了していた行事が午後になれ込み、参加者の弁当の手配や、午前中は参加するが、午後は不参加という方も目立ちました。午前中で終わる行事も終わらなくなり、結果として午後からの利用者も減少すると思います。午前8時ごろには行事が開催できるよう規定を改定し、スタジアムの利用効率を高めるよう改善を望むものです。

【回答】K Y B スタジアムの開場時間につきましては、規則では午前9時としておりますが、オープン以来、市民の皆様にご利用いただくなかで、「午前9時前から開場してほしい」との声を数件いただきました。

これに対し市としては、柔軟に対応すべく、大会運営に支障をきたすなど特別な理由がある場合には、午前9時以前からも使用できるよう対応することとしました。

【質問】Kルート of 安全対策とカラー舗装化

春里地区内のKルートは可児川左岸から運動公園、市道23号線を経由し、ささゆりクリーンパークに至るコースで自然を楽しみながら歩くコースであります。

夏場は早朝や夜間に歩く人がほとんどであります。このコースのうち可児川河畔、23号線の横市から塩河、ささゆりクリーンパークまでは、ほとんど街灯がなく利用者からKルートに指定することは良いが、暗くて安心して歩けない、一般歩道と差別化をしてはという声が寄せられています。

歩行者の安全対策のために、Kルート上の街路灯新設とカラー舗装化を行うと、だれに

でもわかるKルートになると考えます。

また、ウォーキングをされている方は、日中ではなく、朝方や夜間に歩かれる方がほとんどですので、暗い個所には街路灯を設置するような配慮をお願いしたいと思います。

【回答】Kルートは、市民のみなさまにリフレッシュできる空間として気軽に活用いただけるよう、市として積極的に取り組んでいる事業です。市民のみなさまからは、今も意見募集をしており、今後の整備への反映できるよう考えております。

Kルートにつきましては、コースが分かりやすく歩きやすいよう、スタート地点などでの案内看板や距離表示の設置などを順次予定しています(今年度は2～3ルートを予定)。また、大きな危険があるところは最初からルートに指定していませんが、注意喚起が必要な場所への看板設置や、安全に通行できるよう路面補修なども予定しています。

Kルートのなかには、ご意見をいただきました春里以外にも、河川管理道の利用など夜間の安全性が低いところがありますが、街路灯の設置については考えておりません。

まずは、昼間など安全な時間帯にあるがままのルートを歩いていただき、地域のみなさんからアイデアを出していただき、全体の整備計画のなかで検討し、より良いルートづくりにつなげていきたいと考えます。

また、Kルートとは、観光的なイメージで昼間を想定して設定していますので、夜間については考えていませんが、302運動など、別の概念として危険であると考えられる箇所については、教えていただいて街路灯の設置等相談させていただきたいと思います。

【質問】小中学校資源回収について

小中学校では、資源回収を行うことにより、市より可児市資源集団回収事業奨励金が支払われ、生徒の部活動への助成や子どもたちの健全育成に根ざした取り組みに対する貴重な財源となっています。

かつて資源回収は、手数料を支払ってまでも業者に引き取っていただく時代がありましたが、現在は資源の有効利用が定着し、利益も出るようになったことから、有償で業者が引き取ってくれるようになりました。

最近では、学校以外でも資源回収が行われるようになり、スーパーなどで新聞、チラシ、ペットボトル、アルミ缶その他の資源を回収するようになりました。場所によってはポイントを発行し、ポイントがたまれば商品を安く買うシステムを導入しているお店もあります。

主婦感覚からすれば、古新聞、チラシを買い物ついでにスーパーへ持って行き、安く物が買え、家の中も片付くのは、一挙両得であり、全店舗でこのような取り組みをされれば、小中学校の資源回収量が先細りし、これまで通りの活動費用を捻出していくのは困難となります。

児童、生徒、行政、スーパーなどの業者がお互いにメリットがあるよう協議を進め、施策を展開していくことが、今後必要となるのではないかと考えますが、市長の考えをお示しくください。

【回答】資源回収の目的は、ごみを出さない循環型社会の構築とリサイクルコストの削減、リサイクルの向上率を図ることで、ごみの減量を図り、焼却・最終処分にかかる費用を削減することにつながることにあります。

資源回収を効率的に効果的に推進するためには、行政による分別収集（紙容器）・拠点回収（エコドーム）だけでなく、PTA等による集団回収、スーパー等による店頭回収といった多様なシステムが必要だと考えています。

従いまして、スーパー等の店頭回収も重要な手段の一つであり市として協議を行い調整するという事は考えておりません。

また、小中学校の資源回収につきましては、昨年、回収環境向上のため、教育委員会が学校にコンテナを常設設置することについて提案しましたところ、多くの学校は、場所の確保、安全・防犯管理等の理由により難しく、設置校は東可児中学校のみというのが現状です。

この他、小中学校におかれましては、既に実施してみえることかと思いますが、PTA総会、自治会回覧等で資源回収の趣旨を理解してもらうなど、集団回収への協力依頼の啓発活動も回収量向上の施策として有効ではないかと考えます。

【質問】コミュニティバスのあり方について

少子高齢化が進む中、運転免許を持たない若年層、あるいは運転が困難となってきた高齢者にとって、コミュニティバスは生活を支える重要な公共交通サービスとして認識されています。

私達、交通安全協会の役員は、毎月2日ほど通学道路の交差点で立哨を行っています。昨年度の役員会で、春里地区は南北の距離が約6kmと広大で、塩河や清水ヶ丘等から春里小学校へ通学する児童は、毎日1時間以上かけて通学しており、行き交うトラックや長く暗い道路は交通安全や防犯面から考えても危険であるため、コミュニティバスをスクールバスとして活用することが出来ないかとの意見が出ました。通学時間に合わせるためには運行開始時間を早めるなど課題はあるでしょうが、高齢者のみならず、真に必要な方にコミュニティバスを利用していただくという視点を持つことも重要ではないかと考えます。

また、平成26年10月1日の改正により、大量輸送が見込まれる路線にはさつきバスを、空白地帯には電話で予約バスを配置されました。また、路線の見直しも行われ、春里地区からアーラへ行く場合などには、一度乗り換えることとなり、若干不便になったとの声が聞かれるようになりました。

人によって行きたい場所はそれぞれであり、全員が満足するような路線に見直すための決定的な解決策はないと考えますが、大多数の人が望む場所に乗り換えることなく行くことができるよう次の見直し時には考慮していただくようお願いいたします。

これらを踏まえ、コミュニティバスのあり方について、市長のお考えをお示してください。

【回答】市では、誰もが使いやすい公共交通を目指すことは大変重要と考えており、名鉄広見線を中心とし、路線バスと競合しないようさつきバスや電話で予約バスの役割を明確にして運行しています。昨年10月の再編も、この考え方のもと、運行区域や路線、運行時

間帯、ダイヤ、停留所などを見直したところです。

このため、行きたいところすべてに利便性高くさつきバスを走らせることが難しいことをご理解いただきたいと思います。とはいうものの、少しでもみなさまにご利用しやすくするため、さつきバスについてはバス車内にも意見箱を設置なども行い、広く意見をいただく機会を設けております。

朝夕の通学や通勤などへのさつきバスの対応につきましては、運行が必要な時間帯のバス車両の確保をはじめ、運行事業者の対応の可否も大きく影響します。運行事業者からは、朝夕のみの乗務員の確保はできないなど、従来から拡大の可能性は大変難しいとの見解をいただいています。このことから、さつきバスの路線は一日を通してある程度の利用者が見込める地域を対象に運行し、その以外の地域は電話で予約バスで対応しているところです。

今後も、地域のみなさまが手軽にコミュニティバスを使えるよう、常に見直しを行いつつ対応して参りますので、積極的にご利用いただき、ご意見を賜りますようお願いいたします。

【質問】ごみの集積所について

地域のごみの集積所を、カラスなどの動物が荒らして困っています。市として何か対策はあるのでしょうか。また、清須市や瀬戸市は、カラス対策としてカラスが見えないと言われていた黄色のゴミ袋を使用しているようです。可児市も黄色のゴミ袋に変更できないのでしょうか。

【回答】カラスをはじめとして鳥獣を無断で捕獲することは動物愛護法に抵触しますので殺すことはできません。地域の方ができることは、まず追い払うこと、そして動物の好むものを置かないことなどです。また、被害が大きい箇所については教えていただきたいと思います。

イノシシについては、有害となる場合には、資格を持った猟友会に依頼して駆除していただきます。また、市の補助金を活用していただいて、電気柵を設置していただくことも有効かと思えます。

アライグマ、ヌートリアなど外来種の駆除については、市で行う講習会を受講して許可を得ていただければワナをお貸しして捕獲することができますが、殺すことはできませんので、猟友会と連携しながら処分いたします。

また、黄色のゴミ袋については、まずは効果を検証したいと思います。